

## 銅の輸出は増加、輸入は大幅減

### 自動車生産、なお減少も減少幅は縮小

橋本健一郎氏リポート①

#### ■国際概況

八月の前半は香港・台湾をめぐる米中対立激化懸念からの米国の追加支援策に対する期待や、中国工業用需要回復期待などのプラス材料もあったが、世界最大の産銅メーカー、チリCodelcoは新型コロナウイルスにもかかわらず、今年上半年生産高が四・七%増加、七四万四、〇〇〇トンに達したと発表。供給サイドへ影響はこれまでのところさほど大きくはなかったことを裏付けたことからLME銅相場はDOWN、八月十五日時点で六、三四二ドル(セツル)と月初価格より一〇四・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は弱ユーロ圏PMIやそれを受けた欧州株の軟調な足取りなどのマイナス材料もあったが、中国の公式データで七月の精製銅生産高が前月より五・三%減少して八一万四、〇〇〇トンであったことが明らかとなったこと、米中高官による電話での貿易協議で、第一段階の合意を順守することが再確認されたことを好感しLME銅相場はUP、九月三日現在、後半スタート価格から二八〇ドルUPの六、七一九ドル。当月スタート建値は七五万円。

#### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇六・六〇→一〇七・九三(円)。

#### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比三六・六%減の五一万三、六二六台。

輸出(七月)は前年比三四・六%減の二九万一、二七一台。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一八・五%減の一九万七、八三二台。

#### ◆新設住宅着工件数

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一一・四%の減少となった。また、季節調整年率換算値では前月比四・八%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、二三二戸。前年同月比一一・四%減と一三カ月連続の減少。

新設住宅着工床面積は五六一六千㎡。前年同月比一五・六%減、一二月連続の減少。季節調整年率換算値では八二八千戸。前月比四・八%増、先月の減少から再びの増加。

#### ◆貿易関連指標

##### 輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が五三・一%増の七万四、六〇二t、スクラップが六〇・三%増の三万五、〇六四t。

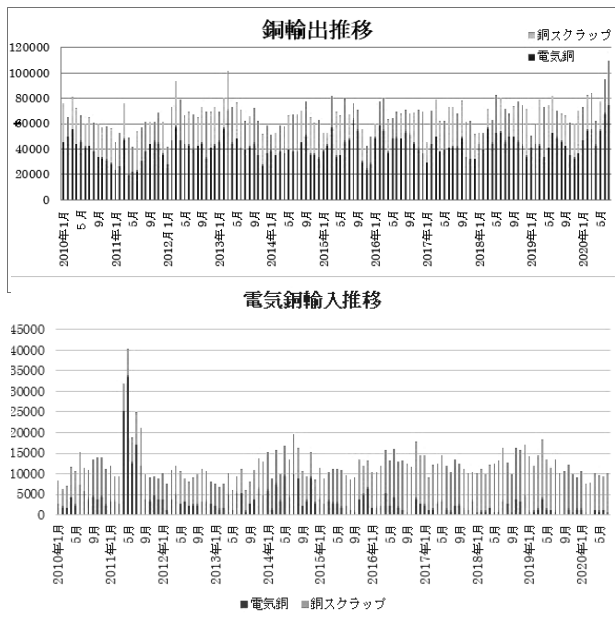
##### 輸入

輸入は電気銅が前年比五〇・一%減の四〇〇t、スクラップが二二・五%減の九、七〇三t。

#### ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の七月の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三四・六%減の四万三、七八五t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一五・六%減の五万三、八〇〇tであった。(六面へ続く)



# LME銅・米中の景気動向やコロナ収束の動向が左右 為替予想

(四面より続く)

## ■国内概況まとめ

### 【自動車生産】

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比三六・六%減の五二万三、六二六台。

輸出(七月)は前年比三四・六%減の二九万一、一七一台。

### 【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一八・五%減の一九万七、八三二台。

このうち乗用車一六・一%減、貨物二九・三%減、バス五七・一%減。

### 【住宅着工戸数】

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一・四%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四・八%の増加となった。

### 【伸銅品生産】

七月伸銅品生産は前年比三四・六%減の四万三、七八五tと、二〇カ月連続減少。リーマンショックの翌年二〇〇九年以来の少ない生産量となった。

中国国内の工場再開による需要増加の期待もされているが、伸銅業界に関するところでは、まだ前年比でマイナス需要の感があると言っている。過去、リーマンショックの後、消費財の需要が回復したときの伸銅品の需要増加するまで、二カ月かかった。その教訓からも、自動車業界の生産再開から二カ月程度遅れて伸銅品の生産回復が進む。品種別では、銅条が前年同月比三一・一%減と三カ月連続マイナス、黄銅棒は同三五・五%減と二カ月連続のマイナス。

### 【電線出荷】

前年比一五・六%減の五万三、八〇〇t。このうち国内一五・六%減、輸出が一五・八%減。

### 【輸出】

電気銅輸出が五三・二%増の七万四、六〇二t、銅スクラップが六〇・三%増の三万五、〇六四t。

### 【輸入】

電気銅が五〇・一%減の四〇〇t、スクラップが二二・五%減の九、七〇三t。

### 【見通し】

・六月の自動車生産が三六・六%減。国内販売台数が前年比一八・五%減。  
生産・販売ともに大幅減だが生産の減少率が治まってきていることも注目。  
・七月伸銅品生産は前年比三四・六%減の四万三、七八五tと、二〇カ月連続減少。リーマンショックの翌年二〇〇九年以来の少ない生産量となった。

中国国内の工場再開による需要増加の期待もされているが、伸銅業界に関するところでは、まだ前年比でマイナス需要の感があると言っている。過去、リーマンショックの後、消費財の需要が回復したときの伸銅品の需要増加するまで、二カ月かかった。その教訓からも、自動車業界の生産再開から二カ月程度遅れて伸銅品の生産回復が進む。

・銅電線出荷は前年比一五・六%減の五万三、八〇〇t。このうち国内一五・六%減、輸出が一五・八%減。こちらも悪化。  
・銅輸出は米中景気の回復期待需要からともに増加。

・銅輸入はコロナショックによる景気後退からともに大幅減。

### 【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が八月中旬に二万円上昇したことや、前月からの玉不足が響いて少ない。需要面に関しては内需は低迷のままだが、米中需要の回復からの輸入玉不足からのシフトで需要は旺盛。

### 【LME・為替予想】

今月は米中の景気動向やコロナウイルス収束の動向に左右される。

米中の景気動向に関しては中国で工業生産、自動車販売台数など強気経済指標の発表が相次いだことや、八月米新車販売台数の堅実な回復と七月から大幅に増加した全米非農業部門雇用者数などから回復傾向にあるのではないかと。

コロナ収束の動向に関しては、米国で新型コロナウイルスからの回復者の血漿を投与する新たな治療法を米食品医薬品局(FDA)が特別に認可したこと、米モデルナのワクチン開発進捗と、英アストラゼネカの抗体ベース治療薬治験開始したことから回復傾向にあるのではないかと。

これらを踏まえた九月の銅価格は六、五〇〇〜七、〇〇〇ドル(セツル)との予想。  
ドル円値は一〇六円〜一〇八円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては七三〇〜八〇〇円程度と予測している。

### ◇上海取引所在庫(九月四日発表)

▽銅		一七万六、八七三	トン
		六、七八七	トン増
▽アルミ		二四万九、三三三	トン
		一、六八四	トン減
▽鉛		二万六、一二七	トン
		一、四五三	トン減
▽亜鉛		七万四、三二五	トン
		六八五	トン減